

大原社会問題研究所五十年史

Ⅱ 創立当初〔一九一九～二二年〕

社会衛生研究部門の分離と労研の設立

なおこの年の暮、研究所内の社会衛生関係の機構を分離して、倉紡工場に新設される社会衛生の研究部門に、暉峻氏はじめその関係スタッフが移行することになった。一二月二日、高野氏は倉敷に出張して、大原孫三郎、原澄治、暉峻義等、高田憐徳の諸氏と会い、右の分離を正式に決定し、その研究部門の主任には暉峻氏が当ることこの時内定した。

倉紡工場の労働者を対象とする労働衛生の調査研究は、すでにこの年の春から暉峻氏によって着手され、七月には石川知福、桐原葆見氏の参加をえて、わが国最初の婦人労働者深夜業の労働科学的調査が行われた。翌一九二一年六月には倉紡工場内に新築事務所が完成し、七月一日倉敷労働科学研究所が成立した*。

*倉敷労働科学研究所の創立にともない、従来大原社会問題研究所編として発行されてきた『日本社会衛生年鑑』は、当然労研にひきつがれる筈であったが、暉峻氏が同年七月一日ヨーロッパ留学の途につき、また草創期の労研で直ちに独立の出版物を発行することに困難のあるところから、二一年五月、当分の間従来そのまま大原社会問題研究所名義で発行することに決ったのである。このような事情で、『日本社会衛生年鑑』は一九二二年の第三集までは大原研究所で発行し、その翌年から労研にひきつがれた。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)
